



2026 年 9 月 16 日

各 位

会社名 株式会社オーディオストック
 代表者名 代表取締役社長 西尾 周一郎
 (コード番号：621A 東証グロース市場)
 問合せ先 取締役 C F O 八木 俊
 (TEL 086-250-8981)

東京証券取引所グロース市場への上場に伴う当社決算情報等のお知らせ

当社は、本日、2026 年 9 月 16 日に東京証券取引所グロース市場に上場いたしました。今後とも、なお一層のご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

なお、2026 年 9 月期（2025 年 10 月 1 日～2026 年 9 月 30 日）における当社の業績予想は、次のとおりであり、また、最近の決算情報等につきましては別添のとおりであります。

【個別】 (単位：百万円、%)

項目	2026 年 9 月期 (予想)			2026 年 9 月期 第 3 四半期累計期間 (実績)		2025 年 9 月期 (実績)	
		対売上高 比率	対前期 増減率		対売上高 比率		対売上高 比率
売上高	1,753	100.0	116.3	1,310	100.0	1,507	100.0
営業利益	444	25.3	116.6	344	26.3	380	25.3
経常利益	434	24.8	115.0	346	26.4	377	25.0
当期（四半期） 純利益	327	18.7	74.4	344	26.3	439	29.2
1 株当たり 当期（四半期） 純利益	80 円 47 銭			84 円 94 銭		108 円 35 銭	
1 株当たり 配当金	0 円 00 銭			—		0 円 00 銭	

- (注) 1. 当社は連結財務諸表および四半期連結財務諸表を作成しておりません。
2. 2025 年 9 月期（実績）及び 2026 年 9 月期第 3 四半期累計期間（実績）の 1 株当たり当期（四半期）純利益は期中平均発行済株式数により算出しております。
3. 2026 年 9 月期（予想）の 1 株当たり当期（四半期）純利益は、公募株式数（10 万株）を含めた予定期中平均発行済株式数により算出しております。
4. 当社は、2025 年 6 月 12 日付で定款の一部変更を行い、優先株式に関する定款の定めを廃止し全ての優先株式を普通株式に転換しております。
5. 2025 年 6 月 13 日付で普通株式 1 株につき 200 株の株式分割を行っております。上記では、2025 年 9 月期の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1 株当たり当期（四半期）純利益を算定しております。

【2026 年 9 月期業績予想の前提条件】

1. 当社全体の見通し

当社は、「Happy Creators, Happy Creation ―クリエイターがもっと活躍できる世界に―」というビジョンのもと、素晴らしい創造物を生み出す「クリエイターの持続的な創作活動をサポートする」ことをミッションに掲げ、事業を展開しております。

当社は、クリエイターが制作した音源の著作権を管理し、様々な用途で音源の利用機会を開発し収益化する音源ライツビジネスプラットフォームを展開しております。具体的にはクリエイターから BGM、効果音、ボイス・ナレーションなどの各種音源をお預かりし、それらの著作権を管理した上で、自社の運営するオンラインプラットフォーム上などでライセンス販売を行う課金収入によるサービスを事業基盤として、テレビ・ラジオ等での放送利用による著作権収入（いわゆる印税収入）獲得、Apple Music や Spotify などのストリーミングサービスによる音楽配信から得られる配信収益等、お預かりした楽曲を様々な用途に展開して収益を得る著作権等収入によるサービスへと事業展開しております。なお、当社は「Audiostock」事業の単一セグメントであるため、セグメント別の記載はしていませんが、課金収入サービス及び著作権等収入サービスを展開しております。

セグメント	サービス	内容
Audiostock 事業	課金収入	音源ライセンス販売サービス「Audiostock」での定額課金、単品販売 代理店による提携販売
	著作権等収入	著作権収入、著作隣接権収入、音楽配信収入

当社が事業を展開するストックミュージック市場（課金収入）は、国内で 120 億円、グローバルでは 2,403 億円となっております。関連市場として、年々拡大基調にある SNS 市場や動画コンテンツ市場が挙げられますが、同市場の成長に伴い、ストックミュージック市場は年間平均成長率 8 % 以上で推移しており、2028 年にはグローバルで 3,147 億円の市場規模になる見込みとなっております（注 1）。

また、著作権等収入のうち、売上の 90% 超を占める著作権及び著作隣接権収入については、当社で取り扱う音源がテレビ・ラジオ等放送で利用されることにより収益を獲得することができますが、テレビ・ラジオ等に係る放送領域の国内市場規模は 472.4 億円（注 2）となっており、近年、安定的に推移しております。本サービスは、音源ライセンス販売サービス「Audiostock」でストックされた音源を、著作権等管理事業者へ管理委託することで収益化を図っておりますが、持続的に増加する音源ストックを背景に、安定推移する市場において当社の市場シェアは今後も拡大していくものと考えております。

（注） 1. ストックミュージック市場規模：arizton 社レポート「STOCK MUSIC MARKET2023-2028」より当社算出、1 ドル 155 円換算

2. （株）NexTone「2025 年 3 月期 決算説明資料」、一般社団法人日本音楽著作権協会（JASRAC）「2024 年度の事業」、公益社団法人日本芸能実演家団体協議会 実演家著作隣接権センター（CPRA）「2024 年度年次報告書」、一般社団法人日本レコード協会「令和 6 年度決算報告書」より当社算出

このような状況の下、当社の 2026 年 9 月期の業績は、売上高 1,753 百万円（前期比 16.3%増）、営業利益 444 百万円（前期比 16.6%増）、経常利益 434 百万円（前期比 15.0%増）、当期純利益 327 百万円（前期比 25.6%減）を見込んでおります。

2. 業績予想の前提条件

本資料に記載の2026年9月期の業績予想数値は、2026年5月までの実績値に2026年6月以降の予想数値を合算した数値となっております。なお、2026年6月以降の予想数値と実績数値とに大きな差異は生じておりません。

また、当社は、Audiostock事業の単一セグメントであるため、セグメント別の記載を省略しております。

(1) 売上高

当社の売上構造は、クリエイターからBGM、効果音、ボイス・ナレーションなどの各種音源をお預かりし、それらの著作権を管理した上で、自社の運営するオンラインプラットフォーム上などでライセンス販売を行う「課金収入」と、テレビ・ラジオ等での放送利用による「著作権等収入」を展開しております。

① 課金収入

課金収入による売上高は、主に音源の単品販売による売上高と、定額制プランによる継続顧客からの売上高によって構成されており、2026年6月末現在において課金収入に占める定額制プラン売上の割合は80%超となっております。単品販売においては過去の販売実績に基づき、売上推移及び季節変動要因等を加味した上で計画を策定しており、2026年9月期売上は当初計画通りでの推移を見込んでおります。定額制プランにおいては、利用用途によって3種類のプランを設けております。計画を策定する上では、各プランごとの新規契約者数及び解約率の傾向を分析した上で契約数の推移を予測し、プラン毎の単価を乗じて計画を策定しており、2026年9月期の国内定額制売上については、当初計画比4.9%増で推移しております。

課金収入については2026年9月期第3四半期累計期間における売上高実績は486百万円（前年同期比8.3%増）、主要な定額制契約件数（エンタープライズプラン及びスタンダードプラン）は10.1千件（前年同期比7.9%増）と堅調に推移しており、7月以降も同様の傾向が続くものと想定し、2026年9月期売上については、650百万円（前期比8.3%増）を見込んでおります。

② 著作権等収入

著作権等収入は、NexToneなどの著作権等管理事業者に管理を委託した作品について、テレビ・ラジオ放送などで利用された場合に、著作権等管理事業者を通じて著作権収入や著作隣接権収入を受け取ることのできるサービスです。

著作権収入は、直近の傾向として著作権管理楽曲数の増加に比例して売上高が伸びる傾向にありますが、2025年9月期の3.4万曲から2026年6月末時点では4.4万曲まで楽曲数が増加した結果、著作権収入の実績も概ね計画通り推移しております。

また著作隣接権収入は、2023年9月期より開始した比較的新しい取り組みで、2023年6月に著作隣接権を取り扱う関連団体へ加盟（注）したことにより、新たに分配を受けられることになり、2024年9月期に初めて売上を計上しております。

本取り組みにより、2026年9月期第3四半期累計期間における著作権等収入実績は807百万円（前年同期比39.9%増）となっております。その結果、2026年9月期の著作権等収入については、1,084百万円（前期比22.7%増）を見込んでおります。

なお、第3四半期累計期間の前年同期比増加率に対して通期の前期比増加率が相対的に低くなっている主な要因は、著作隣接権収入の影響によるものです。2025年9月期は、著作隣接権収入の本格的な計上を開始した時期であり、通常の分配対象期間に係る収入に加えて、初年度の分配に伴い過年度の放送使用分に係る使用料も計上されたため、一時的に収入が押し上げられております。このため、2026年9月期は著作権管理楽曲数の増加等を背景に著作権等収入は引き続き増加する見込みであるものの、前期に計上された当該一時的要因の反動により、通期では前年同期比に比べて前期比の増加率が低くなっております。

以上の結果、2026年9月期第3四半期累計期間の売上高実績は1,310百万円となっており、2026年9月期売上高は1,753百万円（前期比16.3%増）を見込んでおります。

（注） 一般社団法人日本音楽出版協会に準会員として入会、一般社団法人日本音楽制作者連盟に権利委任者登録を開始

(2) 売上原価、売上総利益

売上原価は、クリエイターからお預かりした音源について、課金収入や著作権等収入から得られる収入に対して、当社規約に基づく一定の割合をお支払いするクリエイター報酬と、取り扱いする音源が一定の品質に達しているかを販売前に審査するため音源審査費用、生演奏による良質な音源のレーコーディング等コンテンツ制作費用等から構成されております。

クリエイター報酬は、各種サービス提供を通じた売上高に応じて発生するため、主として前期の実績原価率を考慮し、予想販売額を元に算出をしています。

音源審査費用ならびにコンテンツ制作費用については、毎期大きな変動はなく予算策定時点で計上額がおおよそ把握できるため、年間予算策定時に見込みを立てています。

主に著作権隣接権に係る売上高が伸びたことに連動して、2026年9月期第3四半期累計期間における売上原価実績は554百万円（前年同期比26.5%増）となっており、2026年9月期の売上原価は739百万円（前期比19.1%増）、売上総利益は1,013百万円（前期比14.4%増）を見込んでおります。

(3) 販売費及び一般管理費、営業利益

販売費及び一般管理費は、主に人件費・広告宣伝費・通信費・支払手数料等で構成されております。

そのうち人件費(240百万円)は販売費及び一般管理費の全体の42.2%を占めており、人員計画等に基づいて算出しております。

広告宣伝費(38百万円)は主に国内及び海外向けWeb広告費用であります。当社は国内単品販売、定額制スタンダードプラン、定額制動画配信者プラン販売の維持・強化のため、広告投下による顧客獲得状況を解析し、CPA（顧客獲得単価）の妥当性を確認の上で広告予算を決定しております。

通信費(61百万円)は販売管理システムの稼働及び登録楽曲の保管に要するサーバー費用及び、社内業務、サービス開発等に必要な各種ツール類の為の費用であります。

支払手数料(131百万円)は外部の著作権等管理団体へ支払う管理手数料、音楽配信事業者へ支払う事務手数料及びユーザーがサービス購入する際のクレジットカード決済手数料等で構成されております。

いずれの手数料も各売上高に応じて発生する為、売上計画に基づいて算出しております。

以上の結果、2026年9月期第3四半期累計期間における販売費及び一般管理費実績は411百万円（前年同期比16.3%増）となっており、2026年9月期の販売費及び一般管理費は568百万円(前期比12.6%増)、営業利益は444百万円(前期比16.6%増)を見込んでおります。

なお、第3四半期累計期間の前年同期比増加率に対して通期の前期比増加率が相対的に低くなっている主な要因は、著作権隣接権収入に係る支払手数料等の影響によるものです。2.業績予想の前提条件(1)②著作権等収入で記載のとおり、2025年9月期は、著作権隣接権収入の過年度の放送使用分に係る使用料が計上されたことにより、一時的に収入が押し上げられた結果、付随する支払手数料も増加しており、前期に計上された当該一時的要因の反動により、通期では前年同期比に比べて前期比の増加率が低くなっております。

(4) 営業外損益、経常利益

営業外収益は5百万円を計画しており、営業外費用としては新規上場に関連する一時的な費用を含め、15百万円を計画しております。

以上の結果、経常利益は434百万円(前期比15.0%増)を見込んでおります。

(5) 特別損益、当期純利益

特別損益の発生は計画しておりません。

以上の結果、2026年9月期の当期純利益は327百万円(前期比25.6%減)を見込んでおります。

なお、経常利益は前期比15.0%の増加を見込む一方で、当期純利益が前期比25.6%の減少となっている主な要因は、税金費用の影響によるものです。前期においては、繰延税金資産の計上に伴い法人税等調整額（益）が計上され、税金費用が一時的に減少したことによる反動が生じております。これに加え、当期においては業績が堅調に推移していることに伴い課税所得が増加し、「法人税、住民税及び事業税」及び「法人税等調整額（費用）」がともに増加することで税金費用負担が大きくなるため、結果として当期純利益は前期比で減少する見込みとなっております。

【業績予想に関する留意事項】

本資料に記載されている当社の当期業績予想は、本資料の日付時点において入手可能な情報による判断及び仮定を前提としており、実際の業績は様々な要因によって異なる場合があります。



2026 年 9 月期 第 3 四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

2026 年 9 月 16 日
東

上場会社名 株式会社オーディオストック 上場取引所
コード番号 621A URL <https://audiostock.co.jp/>
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 西尾 周一郎
問合せ先責任者 (役職名) 取締役 C F O (氏名) 八木 俊 (TEL) 086-250-8981
配当支払開始予定日 —
四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2026 年 9 月期第 3 四半期の業績 (2025 年 10 月 1 日～2026 年 6 月 30 日)

(1) 経営成績 (累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売 上 高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026 年 9 月期第 3 四半期	1,310	—	344	—	346	—	344	—
2025 年 9 月期第 3 四半期	—	—	—	—	—	—	—	—

	1 株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1 株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2026 年 9 月期第 3 四半期	84.94	—
2025 年 9 月期第 3 四半期	—	—

(注) 1. 潜在株式調整後 1 株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの、当社株式は非上場であるため、期中平均株価が把握できませんので、記載していません。

2. 当社は、2025 年 9 月期第 3 四半期については、四半期財務諸表を作成していないため、2025 年 9 月期第 3 四半期の金額及び対前年同四半期増減率並びに 2026 年 9 月期第 3 四半期の対前年同四半期増減率は記載していません。

(2) 財政状態

	総 資 産	純 資 産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2026 年 9 月期第 3 四半期	1,805	1,134	62.8
2025 年 9 月期	1,428	789	55.3

(参考) 自己資本 2026 年 9 月期第 3 四半期 1,134 百万円 2025 年 9 月期 789 百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第 1 四半期末	第 2 四半期末	第 3 四半期末	期末	合計
	円	円	円	円	円
2025 年 9 月期	—	—	—	0.00	0.00
2026 年 9 月期	—	0.00	—		
2026 年 9 月期(予想)				0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2026 年 9 月期の業績予想 (2025 年 10 月 1 日～2026 年 9 月 30 日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1 株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	1,753	16.3	444	16.6	434	15.0	327	△25.6	80.47

(注) 1. 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

2. 2026 年 9 月期(予想)における通期の 1 株当たり当期純利益については、公募株式数 (10 万株) を含めた、予定期中平均株式数により算出しております。

※注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2026 年 9 月期 3 Q	4,059,000 株	2025 年 9 月期	4,059,000 株
② 期末自己株式数	2026 年 9 月期 3 Q	－株	2025 年 9 月期	－株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2026 年 9 月期 3 Q	4,059,000 株	2025 年 9 月期 3 Q	－株

（注）当社は、2025 年 9 月期第 3 四半期については、四半期財務諸表を作成していないため、2025 年 9 月期第 3 四半期の期中平均株式数を記載しておりません。

※ 添付される四半期財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー : 無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項については、添付資料 P. 2「1. 経営成績等の概況 （3）業績予想等の将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	2
2. 四半期財務諸表及び主な注記	3
(1) 四半期貸借対照表	3
(2) 四半期損益計算書	5
第3四半期累計期間	5
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	6
(継続企業の前提に関する注記)	6
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	6
(四半期キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	6
(セグメント情報等の注記)	6

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当社が運営する音源ライセンス販売サービス「Audiostock」は、主に動画配信や動画広告などにおいて、個人・法人を問わず、動画のクオリティやオリジナリティの向上などを目的として幅広く利用されております。また、一部の楽曲については、テレビやラジオ放送等の放送事業者を通じ、あらゆるジャンルのテレビ・ラジオ番組におけるBGMなどとして利用されているほか、世界中に展開する複数の音楽配信サービスを通じ視聴用として利用されております。

当社が事業を展開するストックミュージック市場は、今後も継続的な拡大が見込まれております。これは主に、動画広告市場や動画配信市場の成長にあわせて、動画に使用されるBGMや効果音の需要が高まっているためと考えております。また、テクノロジーの発達とスマートフォンなどのモバイル端末の普及により、個人がクリエイターとしてSNS等で発信するなど、個人・法人問わず幅広いユーザーが高品質かつ多様な種類の音源を求めるようになってきており、今後も市場の拡大余地があると考えております。

このような状況の中、当第3四半期累計期間においては、2025年10月と2026年3月に単品販売による売上及び利益率向上のための施策として、自社保有音源を活用した楽曲のまとめ売りセールをスポットで実施したほか、国内定額制プランの販売促進のための各種施策を継続して実施いたしました。また、当社で音楽著作権を管理している楽曲について、著作権等管理事業者への登録を推し進めました。

以上の結果、当第3四半期累計期間の売上高は1,310,617千円、営業利益は344,128千円、経常利益は346,400千円、四半期純利益は344,755千円となりました。

なお、当社は「Audiostock」事業の単一セグメントであるため、セグメント別の記載はしておりませんが、課金収入サービス及び著作権等収入サービスを展開しております。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第3四半期累計期間末における資産合計は前事業年度末より376,677千円増加し、1,805,545千円となりました。これは主に、現金及び預金が362,883千円、売掛金が3,788千円、無形固定資産が10,695千円増加したこと等によるものであります。

(負債)

当第3四半期累計期間末における負債合計は前事業年度末より31,922千円増加し、670,843千円となりました。これは主に、未払金が38,331千円、契約負債が14,403千円、未払法人税等が8,367千円増加した一方で、その他の流動負債が26,183千円減少したこと等によるものであります。

(純資産)

当第3四半期累計期間末における純資産合計は前事業年度末より344,755千円増加し、1,134,702千円となりました。これは四半期純利益344,755千円による利益剰余金の増加によるものであります。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

2026年9月期の業績予想につきましては、本日公表いたしました「東京証券取引所グロース市場への上場に伴う当社決算情報等のお知らせ」をご覧ください。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2025年9月30日)	当第3四半期会計期間 (2026年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,279,198	1,642,082
売掛金	29,350	33,139
前払費用	18,882	17,473
その他	1,751	3,179
貸倒引当金	△577	△632
流動資産合計	1,328,605	1,695,242
固定資産		
有形固定資産	1,274	1,151
無形固定資産	34,745	45,440
投資その他の資産	64,242	63,710
固定資産合計	100,262	110,303
資産合計	1,428,868	1,805,545

（単位：千円）

	前事業年度 (2025 年 9 月 30 日)	当第 3 四半期会計期間 (2026 年 6 月 30 日)
負債の部		
流動負債		
未払金	376, 584	414, 915
1 年内返済予定の長期借入金	3, 996	2, 684
未払法人税等	586	8, 954
契約負債	202, 184	216, 587
その他	53, 885	27, 701
流動負債合計	637, 236	670, 843
固定負債		
長期借入金	1, 685	-
固定負債合計	1, 685	-
負債合計	638, 921	670, 843
純資産の部		
株主資本		
資本金	100, 000	100, 000
資本剰余金	548, 732	548, 732
利益剰余金	141, 214	485, 969
株主資本合計	789, 946	1, 134, 702
純資産合計	789, 946	1, 134, 702
負債純資産合計	1, 428, 868	1, 805, 545

(2) 四半期損益計算書
(第3四半期累計期間)

(単位：千円)

	当第3四半期累計期間 (自 2025年10月1日 至 2026年6月30日)
売上高	1,310,617
売上原価	554,506
売上総利益	756,110
販売費及び一般管理費	411,981
営業利益	344,128
営業外収益	
受取利息	2,359
助成金収入	250
ポイント還元収入	561
その他	332
営業外収益合計	3,503
営業外費用	
支払利息	80
支払報酬	1,000
その他	151
営業外費用合計	1,231
経常利益	346,400
税引前四半期純利益	346,400
法人税等	1,645
四半期純利益	344,755

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第3四半期累計期間に係る四半期キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期累計期間に係る減価償却費（無形固定資産に係る償却費を含む。）は、次のとおりであります。

	当第3四半期累計期間 (自 2025年10月1日 至 2026年6月30日)
減価償却費	3,243 千円

(セグメント情報等の注記)

当社の事業セグメントは、Audiostock 事業のみの単一セグメントであるため、記載を省略しております。